

・次の文について、行政指導の法的規律のあり方という観点から、論評せよ。解答は、茶色の解答用紙（その2）にするせ。

「行政指導は、そもそも行政指導がされたのか、されたとしてどのような行政指導であったのか、その内容、日時、責任者等が、後日紛争が顕在化した段階になってみると、はっきりしないことが少なくない。」

2006 年度

公法問題用紙

注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙は黒インクのボールペンまたは万年筆で記入してください。黒インクのボールペンまたは万年筆を忘れた者は監督に申し出てください。（黒鉛筆・シャープペンシルなどを使用してはいけません。）
3. この問題冊子は4ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験番号の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

・営業の自由に対する規制の合憲性を裁判所はどのように審査すべきか、具体的な事例をあげて論ぜよ。解答は、紺色の解答用紙（その１）にしるせ。（1000字以内）

・次の問(1)・(2)のうち、どちらか一つを選択して、その概念について論ぜよ。解答は、紺色の解答用紙（その１）の裏面にしるせ。また、選択した問題番号を解答用紙の所定欄に明示せよ。（500字以内）

(1)政教分離原則

(2)行政